



# 熱中症から命を守るために 低所得世帯・生活保護世帯へ、エアコン設置助成・電気代補助を！

## 「熊本市生活と健康を守る会」の要請に、日本共産党市議団も参加

8月17日、「熊本市生活と健康を守る会」は熊本市に対し、「熱中症から命を守るためにエアコンなし世帯へ市独自の設置・電気代助成を求める要請書」を提出しました。

要請書提出の後、健康福祉局長と懇談し、本年度予算ですでに設置した方からのお礼が述べられるとともに、実態に即し、さらに拡充・改善することを求めました。



## 要配慮者だけでなく、エアコンのないすべての保護世帯を対象に

現行制度は、「要配慮者」に限られており、助成対象は65歳以上の高齢者・障がい者・子ども・難病患者等です。65歳以下では病弱であっても対象外です。

今年の猛暑はことのほか厳しく、35度超えの毎日です。若くて元気な人の救急搬送もめずらしくありません。エアコンのない、あるいは壊れているすべての世帯が対象となるよう、直ちに改善すべきです。

## 電気代補助がなければ エアコンが使えない

物価高騰の中、エアコンのある世帯でも、「電気代が心配でエアコンは使っていない」という声があります。これでは、熱中症予防になりません。熱中症を回避するためにも、低所得世帯・生活保護世帯への電気代補助は急務です。

合わせて、生活保護の夏季加算実施を国へ求めるよう要望しました。



## 「お休み処」周知と拡充を！

東京都世田谷区などが設置している暑さ回避の「お休み処」は、熊本市でも現在、公共施設23カ所が指定されています。しかし、身近なところになくしては、気軽に利用することはできません。また、知らない人も多いと思われます。増やして、周知することを求めました。

(右が目印です⇒)



【控室から】  
どの子にも公平に、無償の教育を  
上野 みえこ

この8月、「熊本私学助成をすすめる会」の署名スタート集会が開かれました。今秋も、全国一斉に私学助成の拡充を求めて、署名運動が取り組まれます。高校はもちろん、大学でも公立であれば無償というのが、今や世界の流れです。その中で異常なのが、日本の高学費です。高校は、公立であれば授業料は無償になっていますが、その他諸々、まだまだ負担があります。しかも、公私格差のもとで、私立高校では授業料すら無償ではありません。

集会参加者から、フィンランドでは、高校・大学の無償化はもちろん、大学に入れば生活費も支給されるとの話に愕然としました。

将来を担う子どもたちが、伸び伸びと学び、それぞれの個性が最大限に生かされ、持てる力が発揮されていくためにも、義務教育はもちろん、高等教育まで、公私の別なく、すべての子どもにも公平に、無償の教育を提供していくことが必要だと思っています。

その実現を、あらゆる機会をとらえて求めていきたいと思えます。そして、毎年取り組んできた「私学助成拡充署名」、今年も頑張ります。



上野みえこ  
(中央区)



いせり栄次  
(東区)

日本共産党  
熊本市議会だより

NO. 1335  
2023年8月27日号  
電話 328-2656  
FAX 359-5047



熊本市中央区手取本町1-1 メール: kumamsu@gamma.ocn.ne.jp  
発行: 日本共産党熊本市議団 HP: 共産党 熊本市議団

検索

## 熊本北部浄化センター視察

# 地下水の汚染対策は出口検査と汚染水の流出ストップを

日本共産党熊本市議団と熊本地区委員会は8月10日、北区にある県の熊本北部浄化センターを視察。同浄化センターは菊陽町に進出する台湾の世界的大手半導体製造企業 TSMC が製品の洗浄などに使用した排水の処理を行う熊本県（菊陽町、合志市、熊本市）の施設です。（指定管理による民間運営）

## 浄化センターでの汚染チェックは困難



### 視察で分かった問題点

北部浄化センターでは、規制基準に基づく処理水の検査を行い隣接する坪井川へ放流しています。現在でも1日約7万トンの汚水処理を行っています。処理水はこれまで規制基準値を超えたことがないため1989年の使用開

始から34年間1日も休まずに処理が行われてきました。熊本市内には、県市合わせて6か所の浄化センターがあり、毎日30万トン以上の汚水を処理しています。

仮に基準値を超える有害物質が検査で見つかったとしても放流を止めることはできません。北部浄化センターの視察で同センターでの汚染チェックは困難であることを実感しました。



## 汚染が検出されてもストップできない

法令等による厳しい規制があっても、汚染された水は垂れ流しです。よって浄化センターや放流水・放流先の水質を検査しても、一度汚染されれば、それを止めることは出来ません。

## TSMC 工場の出口での検査が重要

汚染対策には、TSMC 工場の出口での検査と汚染水の流出ストップの仕組みを作ることが必要です。工場から出る前の使用水を検査し、その内容を県や自治体が確認する、基準が守られている場合は、下水道に流し、そうでない場合はストップする、そのことを県と自治体と企業との協定に定める必要があります。

## TSMC が使用する化学物質の公表を

- ① 浄化センターには、どんな化学物質が使われるか県から報告はないので公表を。
- ② 県の汚染に対する管理体制の強化と徹底した情報公開が求められます。
- ③ 浄化センターの説明では、処理能力は、余裕があるとのことでしたが、県は不足するとの見通しで、新しい処理場の予算を組んでいます。